

小学校教育実習における生徒指導に係る不安感の変化

戸 田 浩 暢*

(2014年11月12日 受理)

A Study on Students' Anxieties Before and After Teaching Practice

Hironobu TODA*

The aim of this study is to compare and analyze anxieties of the “students aiming at elementary school teachers (group A)” and the “students aiming at nurses or teachers at kindergartens (group B)” who experienced teaching practice at elementary schools based on the results from the questionnaires taken before and after their teaching practices. As a result, the students in group A feel less anxious after teaching practice as to 18 items out of 20 of the questionnaire. The students in group B feel less anxious as to 14 items, while they feel more anxious as to 4 items. Moreover, the students in group B feel more anxious as to 18 items before teaching practice and as to 19 items after teaching practice than those in group A. Based on the results above, we would like to propose some means to decrease students' anxiety about teaching practice.

Keywords: Teaching practice at elementary schools 小学校教育実習, Student guidance 生徒指導, Anxiety 不安感

1. はじめに

教育実習に参加する学生の、実習前と実習後の不安感の変化に関して、今まで、吉良・佐藤・篠原 (1974)¹⁾が、教育実習前の不安感が実習後に低減していることを明らかにするなど様々な研究²⁾がなされてきた。稿者も幼稚園教育実習参加者と小学校教育実習参加者の実習前と実習後における不安感の推移の比較・考察をした研究³⁾を行い、他の研究同様に、教育実習の事前と事後では、教育実習参加者の不安感の低減がみられたことを「指導能力」・「人間関係」・「体調管理」・「実習全体」の事項に分けて明らかにしている。これは、自らが教育実習を経験することによって、過剰に抱いていた不安感を払拭することができ、また、教育実習終了直後の達成感・解放感が不安感を低減したのではないかと考えられる。

しかし、管見したところ、澤登 (2007)⁴⁾にもみられるように、教育実習全体に関わる事項の研究はなされているが、生徒指導に係る事項の不安感の変化に特化した研究は十分には行われておらず、小学校教育実習における生徒指導に係る不安感の変化に関して、「小学校教諭希望

学生」と「保育士・幼稚園教諭希望学生」の両者の違いを比較した研究も十分には行われていない。本稿では、両者の実習前と実習後における生徒指導に係る不安感の推移の違いについて明らかにし、今後の小学校教育実習参加者に対する指導の在り方について考察したい。

2. 研究の目的と方法

本研究の目的は、本学で小学校教育実習に参加した35名の学生（アンケートに回答した4年生の人数）の小学校教育実習に対する参加前と参加後における生徒指導に係る不安感の変化及び、「小学校教諭希望学生」（10名：A群）と「保育士・幼稚園教諭希望学生」（25名：B群）の不安感の差異について、アンケートの分析を元に明らかにすることである。また、小学校教育実習に係る学生の生徒指導に係る不安感の低減に関して、今後の指導の在り方を考察したい。

研究の方法としては、次の表1に示した質問のアンケート（4段階評価—①：非常にそう思う、②：ややそう思う、③：あまりそう思わない、④：全くそう思わない—）を、実習の事前・事後に実施し、得られたデータを分析していく。アンケートの「1」～「6」は「基本的

* 広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科准教授

生活習慣に係る指導」について、「7」～「11」は「ルール・規範意識に係る指導」について、「12」～「14」は「授業に係る指導」について、「15」～「18」は「問題行動に係る指導」について、「19」～「20」は「豊かな心を育成することに係る指導」についての質問項目である。

なお、事前アンケートに関しては、2014年4月14日に実施し、事後アンケートに関しては、2014年10月2日前後に実施した。アンケート項目に関しては、内藤勇次編著の書籍（2000）の内容項目を参考にした。

表1 小学校教育実習に係るアンケート

	質 問 項 目
1	日常の学校生活における「挨拶の指導」の徹底に不安
2	日常の学校生活における「言葉遣いの指導」の徹底に不安
3	「服装・身だしなみの指導」の徹底に不安
4	「衛生習慣・健康管理の指導」の徹底に不安
5	「整理・整頓の指導」の徹底に不安
6	「給食の時間を利用して行う食事の指導」の徹底に不安
7	「登下校の時間・ルールの指導」の徹底に不安
8	「学級のルール作りの指導」の徹底に不安
9	「休憩時間の使い方・遊びのルールの指導」の徹底に不安
10	「清掃活動における指導」の徹底に不安
11	「規範意識を育てる全般的な指導」の徹底に不安
12	授業時における「言葉遣いの指導」の徹底に不安
13	授業時における「私語への指導」の徹底に不安
14	「教科指導における学習ルールの指導」の徹底に不安
15	「器物破損への対応と指導」の徹底に不安
16	「暴力行為への指導」の徹底に不安
17	「いじめへの指導」の徹底に不安
18	「不登校への指導」の徹底に不安
19	「豊かな心を育成する日常生活での指導」の徹底に不安
20	「道徳の時間を活用した豊かな心を育成する指導」の徹底に不安

3. 小学校教育実習における生徒指導に係る不安感の変化

この節は、アンケート項目に従って、小学校教育実習に対する参加前と参加後における生徒指導に係る不安感の変化及び、「小学校教諭希望学生」(A 群)と「保育

士・幼稚園教諭希望学生」(B 群)の不安感の差異について、グラフを元に分析を行っていく。

1) 日常の学校生活における「挨拶の指導」の徹底に不安

図1から、この質問項目に対し、A 群の学生の事前のアンケートでは、「①非常にそう思う」と「②ややそう思う」の合計した割合が1人(10%)で、「③あまりそう思わない」と「④全くそう思わない」の合計した割合が9人(90%)となっており、ほぼ不安を感じていないことが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が0人(0%)と、全員が不安を抱いていないことが分かる。③の割合が3人(30%)から6人(60%)に増加し、④の割合が6人(60%)から4人(40%)に減少していることが特徴的である。また、B 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が3人(12%)で、③と④の合計した割合が22人(88%)となっており、ほぼ不安を感じていないことが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が0人(0%)と、全員が不安を抱いていないことが分かる。③の割合が19人(76%)から13人(52%)に減少し、④の割合が3人(12%)から12人(48%)に増加していることが特徴的である。そして、A 群の学生とB 群の学生を比較した場合、ほぼ同じ傾向を示しているが、③と④では反対の傾向を示している。なお、グラフ内の数字は人数を表わす。

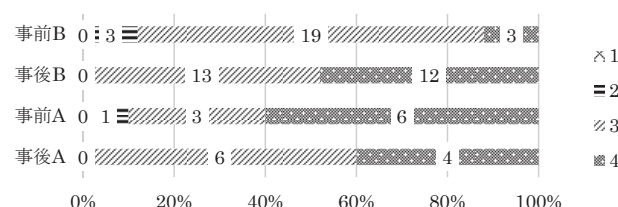


図1 アンケート項目「1」

2) 日常の学校生活における「言葉遣いの指導」の徹底に不安

図2から、この質問項目に対し、A 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が2人(20%)で、③と④の合計した割合が8人(80%)となっており、ほぼ不安を感じていないことが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が1人(10%)と、減少していることが分かる。④の割合が3人(30%)と変化がないことが特徴的である。また、B 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が15人(60%)で、③と④の合計した割合が10人(40%)となっており、不安を感じている学生が多いことが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が11人(44%)と、不安を抱く学生がやや減少したことが分かる。

が、①の割合が1人（4％）から4人（16％）に増加していること、④の割合が2人（8％）から5人（20％）に増加していることが特徴的である。そして、A群の学生とB群の学生を比較した場合、A群の学生は事前から不安感を持っていない学生がほとんどであったのに対して、B群の学生は不安感を持っていた学生が多く、事後においても不安感を持つ学生が多く存在することが特徴的である。不安感の減少という面では同じ傾向を示している。

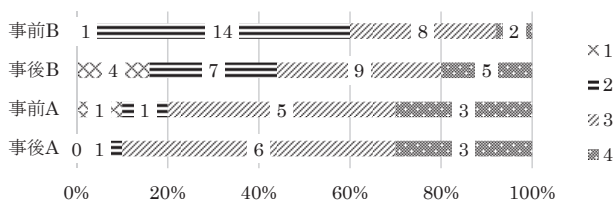


図2 アンケート項目「2」

3)「服装・身だしなみの指導」の徹底に不安

図3から、この質問項目に対し、A群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が3人（30％）で、③と④の合計した割合が7人（70％）となっており、やや不安を感じている学生がいることが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が0人（0％）と、全員不安を感じていないことが分かる。④の割合が3人（30％）から5人（50％）と増加していることが特徴的である。また、B群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が6人（24％）で、③と④の合計した割合が19人（74％）となっており、やや不安を感じている学生がいることが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が6人（24％）と、不安を抱く学生に変化がみられないことが分かるが、③の割合が17人（68％）から10人（40％）に減少していることと、④の割合が2人（8％）から9人（36％）に増加していることが特徴的である。そして、A群の学生とB群の学生を比較した場合、A群の学生は事後では不安感を全ての学生が抱いていないことに対して、B群の学生は事後においても不安感を持つ学生が存在することが特徴的である。

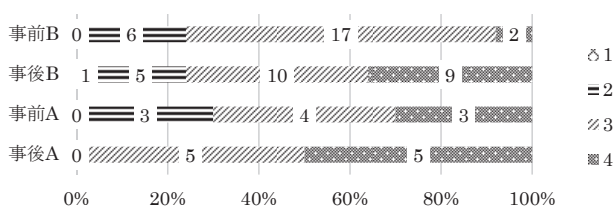


図3 アンケート項目「3」

4)「衛生習慣・健康管理の指導」の徹底に不安

図4から、この質問項目に対し、A群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が3人（30％）で、③と④の合計した割合が7人（70％）となっており、やや不安を感じている学生がいることが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が0人（0％）と、全員不安を感じていないことが分かる。④の割合が3人（30％）と変化がないことが特徴的である。また、B群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が8人（32％）で、③と④の合計した割合が17人（68％）となっており、不安を感じている学生がいることが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が7人（28％）と、不安を抱く学生にほぼ変化がみられないことが分かるが、③の割合が15人（60％）から11人（44％）に減少していることと、④の割合が2人（8％）から7人（28％）に増加していることが特徴的である。そして、A群の学生とB群の学生を比較した場合、A群の学生は事後では不安感を全ての学生が抱いていないことに対して、B群の学生は事後においても不安感を持つ学生が存在することが特徴的である。

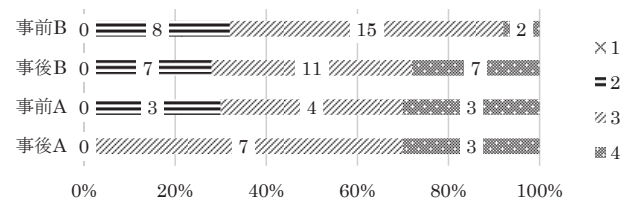


図4 アンケート項目「4」

5)「整理・整頓の指導」の徹底に不安

図5から、この質問項目に対し、A群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が2人（20％）で、③と④の合計した割合が8人（80％）となっており、やや不安を感じている学生がいることが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が0人（0％）と、全員不安を感じていないことが分かる。また、B群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が5人（20％）で、③と④の合計した割合が20人（80％）となっており、不安を感じている学生がいることが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が5人（20％）と、不安を抱く学生に変化がみられないことが分かるが、③の割合が17人（68％）から13人（52％）に減少していることと、④の割合が3人（12％）から7人（28％）に増加していることが特徴的である。そして、A群の学生とB群の学生を比較した場合、A群の学生は事後では不安感を全ての学生が抱いて

いないことに対して、B群の学生は事後においても不安感を持つ学生が同数存在することが特徴的である。

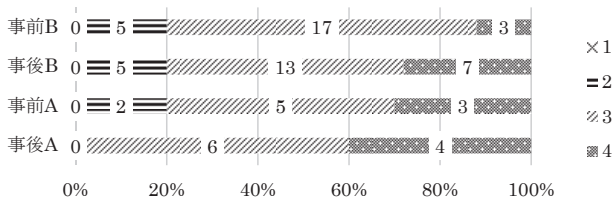


図5 アンケート項目「5」

6)「給食の時間を利用して行う食事の指導」の徹底に不安

図6から、この質問項目に対し、A群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が5人（50％）で、③と④の合計した割合が5人（50％）となっており、不安を感じている学生が多数いることが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が1人（10％）と、ほぼ不安を感じていないことが分かる。③の割合が4人（40％）から6人（60％）、④の割合が1人（10％）から3人（30％）と増加していることが特徴的である。また、B群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が13人（52％）で、③と④の合計した割合が12人（48％）となっており、不安を感じている学生がいることが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が12人（48％）と、不安を抱く学生にほぼ変化がみられないことが分かるが、④の割合が1人（4％）から4人（16％）に増加していることが特徴的である。そして、A群の学生とB群の学生を比較した場合、A群の学生は事後では不安感をほぼ全ての学生が抱いていないことに対して、B群の学生は事後においても不安感を持つ学生がほぼ同数存在することが特徴的である。

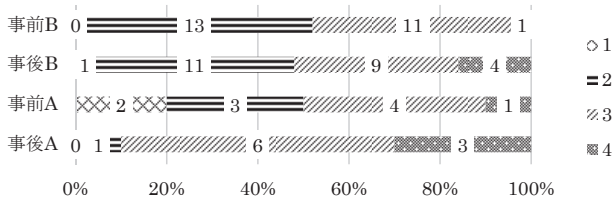


図6 アンケート項目「6」

7)「登下校の時間・ルールの指導」の徹底に不安

図7から、この質問項目に対し、A群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が1人（10％）で、③と④の合計した割合が9人（90％）となっており、不安を感じている学生がほぼいないことが分かる。

事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が1人（10％）と、ほぼ同じであることが分かる。③と④についてもほぼ変化が見られないことが特徴的である。また、B群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が12人（48％）で、③と④の合計した割合が13人（52％）となっており、不安を感じている学生が多数いることが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が10人（40％）と、不安を抱く学生にほぼ変化がみられないことが分かるが、④の割合が1人（4％）から5人（20％）に増加していることが特徴的である。そして、A群の学生とB群の学生を比較した場合、A群の学生は事後でも不安感をほぼ全ての学生が抱いていないことに対して、B群の学生は事後においても不安感を持つ学生がほぼ同数存在することが特徴的である。

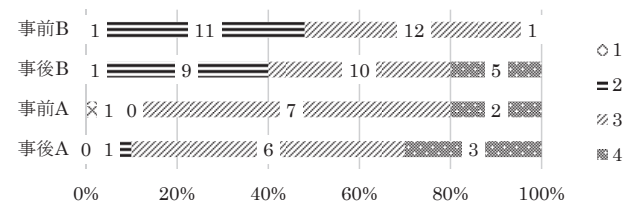


図7 アンケート項目「7」

8)「学級のルール作りの指導」の徹底に不安

図8から、この質問項目に対し、A群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が5人（50％）で、③と④の合計した割合が5人（50％）となっており、不安を感じている学生が多数いることが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が1人（10％）と、ほぼ不安を感じていないことが分かる。③の割合が3人（30％）から6人（60％）、④の割合が2人（20％）から3人（30％）と増加していることが特徴的である。また、B群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が21人（84％）で、③と④の合計した割合が4人（16％）となっており、不安を感じている学生が多数いることが分かる。特に④の割合は0人（0％）となっている。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が15人（60％）と、不安を抱く学生が依然多いことが分かるが、③の割合が4人（16％）から10人（40％）に増加していることと、依然、④が0人（0％）であることが特徴的である。そして、A群の学生とB群の学生を比較した場合、A群の学生は事後では不安感をほぼ全ての学生が抱いていないことに対して、B群の学生は事後においても不安感を持つ学生が多数存在することが特徴的である。

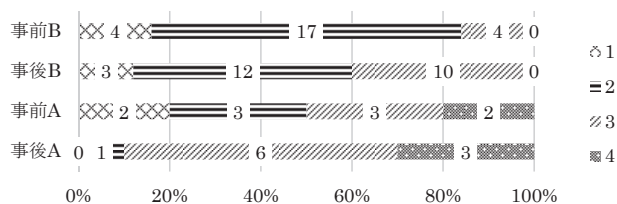


図8 アンケート項目「8」

9)「休憩時間の使い方・遊びのルールの指導」の徹底に不安

図9から、この質問項目に対し、A群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が3人(30%)で、③と④の合計した割合が7人(70%)となっており、不安を感じている学生が存在していることが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が1人(10%)と、ほぼ不安を感じていないことが分かる。③の割合が4人(40%)から6人(60%)、④の割合が3人(30%)と変化していないことが特徴的である。また、B群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が14人(56%)で、③と④の合計した割合が11人(44%)となっており、不安を感じている学生が多数いることが分かる。特に④の割合は1人(4%)となっている。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が9人(36%)と、不安を抱く学生が依然存在することが分かるが、④の割合が1人(4%)から6人(24%)に増加していることが特徴的である。そして、A群の学生とB群の学生を比較した場合、A群の学生は事後では不安感をほぼ全ての学生が抱いていないことに対して、B群の学生は事後においても不安感を持つ学生が存在することが特徴的である。

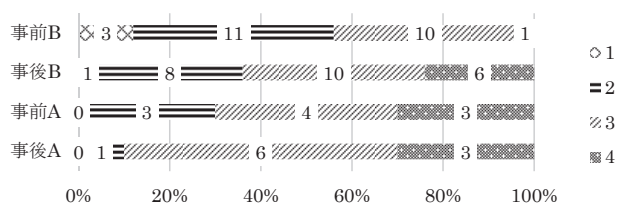


図9 アンケート項目「9」

10)「清掃活動における指導」の徹底に不安

図10から、この質問項目に対し、A群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が1人(10%)で、③と④の合計した割合が9人(90%)となっており、不安を感じている学生がほぼいないことが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が0人(0%)と、全員不安を感じていないことが分かる。③の

割合が5人(50%)から7人(70%)と変化していることが特徴的である。また、B群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が13人(52%)で、③と④の合計した割合が12人(48%)となっており、不安を感じている学生が多数存在することが分かる。特に④の割合は0人(0%)となっている。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が5人(20%)と、不安を抱く学生が依然存在することが分かるが、③の割合が12人(48%)から16人(64%)、④の割合が0人(0%)から4人(16%)に増加していることが特徴的である。そして、A群の学生とB群の学生を比較した場合、A群の学生は事後では不安感を全ての学生が抱いていないことに対して、B群の学生は事後においても不安感を持つ学生が存在することが特徴的である。

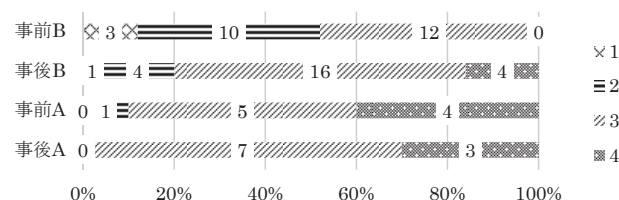


図10 アンケート項目「10」

11)「規範意識を育てる全般的な指導」の徹底に不安

図11から、この質問項目に対し、A群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が6人(60%)で、③と④の合計した割合が4人(40%)となっており、不安を感じている学生が多いことが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が1人(10%)と、ほぼ全員が不安を感じていないことが分かる。③の割合が3人(30%)から8人(80%)と変化していることが特徴的である。また、B群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が21人(84%)で、③と④の合計した割合が4人(16%)となっており、不安を感じている学生が多数存在することが分かる。特に④の割合は1人(4%)となっている。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が20人(80%)と、不安を抱く学生が依然存在することが分かる。④の割合は、0人(0%)であった。そして、A群の学生とB群の学生を比較した場合、A群の学生は事後では不安感をほぼ全ての学生が抱いていないことに対して、B群の学生は事後においても不安感を持つ学生が多数存在することが特徴的である。

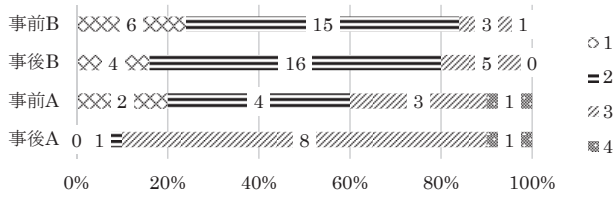


図11 アンケート項目「11」

12) 授業時における「言葉遣いの指導」の徹底に不安

図12から、この質問項目に対し、A 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が3人（30%）で、③と④の合計した割合が7人（70%）となっており、不安を感じている学生が存在することが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が1人（10%）と、ほぼ全員が不安を感じていないことが分かる。④の割合が2人（20%）から4人（40%）と変化していることが特徴的である。また、B 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が19人（76%）で、③と④の合計した割合が6人（24%）となっており、不安を感じている学生が多数存在することが分かる。特に④の割合は1人（4%）となっている。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が12人（48%）と、不安を抱く学生が依然存在することが分かるが、③の割合は5人（20%）から9人（36%）、④の割合は、1人（4%）から4人（16%）の増加が見られた。そして、A 群の学生とB 群の学生を比較した場合、A 群の学生は事後では不安感をほぼ全ての学生が抱いていないことに対して、B 群の学生は事後においても不安感を持つ学生が半数近く存在することが特徴的である。

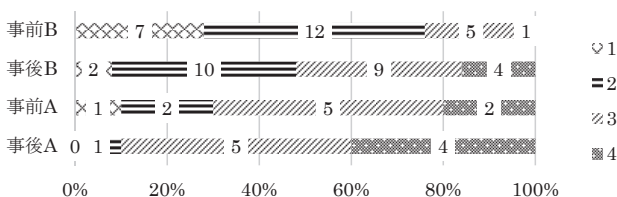


図12 アンケート項目「12」

13) 授業時における「私語への指導」の徹底に不安

図13から、この質問項目に対し、A 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が3人（30%）で、③と④の合計した割合が7人（70%）となっており、不安を感じている学生が存在することが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が2人（20%）と、不安感を持っている学生が存在することが分かる。④の割合が1人（10%）から5人（50%）と変化

していることが特徴的である。また、B 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が15人（60%）で、③と④の合計した割合が10人（40%）となっており、不安を感じている学生が多数存在することが分かる。特に④の割合は1人（4%）となっている。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が8人（32%）と、不安を抱く学生が依然存在することが分かるが、③の割合は9人（36%）から14人（56%）、④の割合は、1人（4%）から3人（12%）の増加が見られた。そして、A 群の学生とB 群の学生を比較した場合、A 群の学生とB 群の学生とも事後においても不安感を持つ学生が存在することが特徴的である。

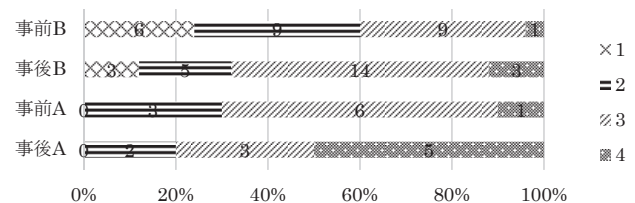


図13 アンケート項目「13」

14) 「教科指導における学習ルールの指導」の徹底に不安

図14から、この質問項目に対し、A 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が4人（40%）で、③と④の合計した割合が6人（60%）となっており、不安を感じている学生が存在することが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が1人（10%）と、ほぼ全員が不安を感じていないことが分かる。④の割合が0人（0%）から3人（30%）と変化していることが特徴的である。また、B 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が22人（88%）で、③と④の合計した割合が3人（12%）となっており、不安を感じている学生が多数存在することが分かる。特に④の割合は0人（0%）となっている。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が17人（68%）と、不安を抱く学生が依然多数存在することが分かるが、③の割合は3人（12%）から7人（28%）、④の割合は0人（0%）から1人（4%）の増加が見られた。そして、A 群の学生とB 群の学生を比較した場合、A 群の学生は事後では不安感をほぼ全ての学生が抱いていないことに対して、B 群の学生は事後においても不安感を持つ学生が多数存在することが特徴的である。

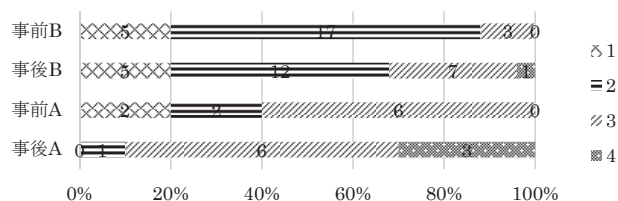


図14 アンケート項目「14」

15)「器物破損への対応と指導」の徹底に不安

図15から、この質問項目に対し、A 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が5人（50％）で、③と④の合計した割合が5人（50％）となっており、不安を感じている学生が半数存在することが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が2人（20％）と、不安を感じている学生が存在していることが分かる。③の割合が4人（40％）から7人（70％）と変化していることと、④の割合が1人（10％）と変化が見られないことが特徴的である。また、B 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が17人（68％）で、③と④の合計した割合が8人（32％）となっており、不安を感じている学生が多数存在することが分かる。特に④の割合は0人（0％）となっている。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が20人（80％）と、不安を抱く学生が依然多数存在するとともに増加していることが分かる。③の割合は8人（32％）から5人（20％）の減少が見られ、④の割合は0人（0％）のままであった。そして、A 群の学生とB 群の学生を比較した場合、A 群の学生は事後では不安感を抱く学生の減少が見られたことに対して、逆にB 群の学生は事後においても不安感を持つ学生が多数存在し増加していることが特徴的である。

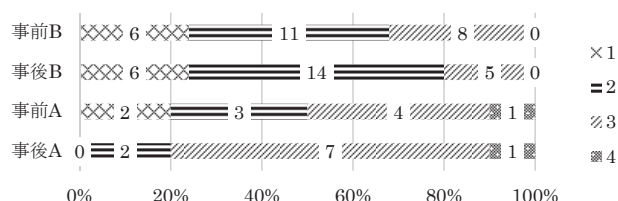


図15 アンケート項目「15」

16)「暴力行為への指導」の徹底に不安

図16から、この質問項目に対し、A 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が4人（40％）で、③と④の合計した割合が6人（60％）となっており、不安を感じている学生が存在することが分かる。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が4人（40％）と、ほぼ変化が見られず、不安感を抱いている学

生が存在していることが分かる。また、B 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が21人（84％）で、③と④の合計した割合が4人（16％）となっており、不安を感じている学生が多数存在することが分かる。特に④の割合は0人（0％）となっている。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が22人（88％）と、不安を抱く学生が依然多数存在するとともに若干増加が見られたことが分かる。③の割合は4人（16％）から1人（4％）の減少が見られた。そして、A 群の学生とB 群の学生を比較した場合、A 群の学生とB 群の学生ともに、事後においても不安感を持つ学生が多数存在することが特徴的である。

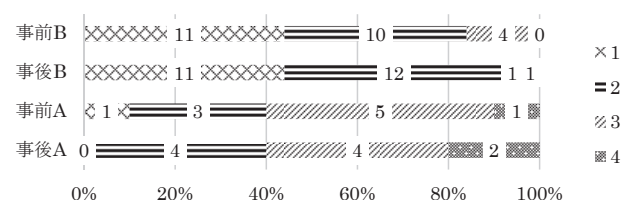


図16 アンケート項目「16」

17)「いじめへの指導」の徹底に不安

図17から、この質問項目に対し、A 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が8人（80％）で、③と④の合計した割合が2人（20％）となっており、不安を感じている学生が多数存在することが分かる。④の割合が0人（0％）であることが特徴的である。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が4人（40％）と、不安感を抱いている学生が減少してはいるが半数近く存在していることが分かる。③の割合が2人（20％）から4人（40％）、④の割合が0人（0％）から2人（20％）に増加していることが特徴的である。また、B 群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が23人（92％）で、③と④の合計した割合が2人（8％）となっており、不安を感じている学生が多数存在することが分かる。特に④の割合は0人（0％）となっている。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が24人（96％）と、ほぼ全員が不安感を抱くとともに若干増加が見られたことが分かる。③の割合は2人（8％）から1人（4％）の減少が見られた。そして、A 群の学生とB 群の学生を比較した場合、A 群の学生は事後においても不安感を持つ学生が半数近く存在しているが、B 群の学生はほとんど全員が不安感を抱いていることが特徴的である。

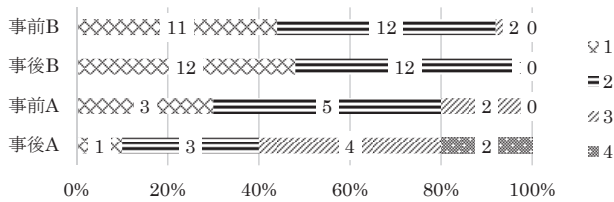


図17 アンケート項目「17」

18)「不登校への指導」の徹底に不安

図18から、この質問項目に対し、A群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が7人（70％）で、③と④の合計した割合が3人（30％）となっており、不安を感じている学生が多数存在することが分かる。④の割合が0人（0％）であることが特徴的である。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が5人（40％）と、不安感を抱いている学生が減少しているが半数存在していることが分かる。③の割合が3人（30％）から4人（40％）、④の割合が0人（0％）から1人（10％）に増加していることが特徴的である。また、B群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が24人（96％）で、③と④の合計した割合が1人（4％）となっており、ほとんどすべての学生が不安感を抱いていることが分かる。特に④の割合は0人（0％）となっている。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が22人（88％）と、若干の減少は見られたがほぼ全員が不安感を抱いていることが分かる。③の割合は1人（4％）から3人（12％）の若干の増加が見られた。そして、A群の学生とB群の学生を比較した場合、A群の学生は事後においても不安感を持つ学生が半数存在しているが、B群の学生はほとんど全員が不安感を抱いていることが特徴的である。

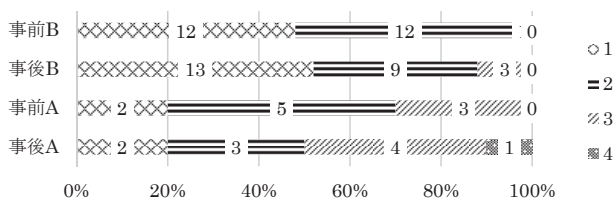


図18 アンケート項目「18」

19)「豊かな心を育成する日常生活での指導」の徹底に不安

図19から、この質問項目に対し、A群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が4人（40％）で、③と④の合計した割合が6人（60％）となっており、不安を感じている学生が半数近く存在することが分かる。④の割合が1人（4％）であることが特徴的であ

る。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が2人（20％）と、不安感を抱いている学生が減少しているが依然存在していることが分かる。③の割合が5人（50％）から8人（80％）に増加していることと、④の割合が1人（10％）から0人（0％）に減少していることが特徴的である。また、B群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が19人（76％）で、③と④の合計した割合が6人（24％）となっており、多数の学生が不安感を抱いていることが分かる。特に④の割合は0人（0％）となっている。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が21人（84％）と、若干の増加が見られ多数の学生が不安感を抱いていることが分かる。③の割合は6人（24％）から4人（16％）の減少が見られた。そして、A群の学生とB群の学生を比較した場合、A群の学生は事後においても不安感を持つ学生が多少存在はしているが、B群の学生は多数が不安感を抱いていることが特徴的である。

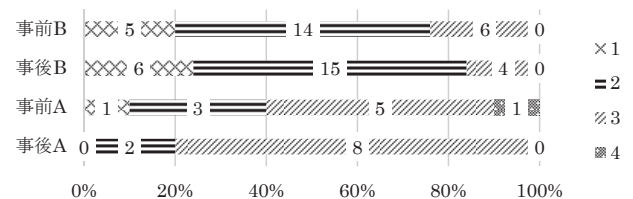


図19 アンケート項目「19」

20)「道徳の時間を活用した豊かな心を育成する指導」の徹底に不安

図20から、この質問項目に対し、A群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が6人（60％）で、③と④の合計した割合が4人（40％）となっており、不安を感じている学生が半数以上存在することが分かる。④の割合が0人（0％）であることが特徴的である。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が2人（20％）と、不安感を抱いている学生が減少していることが分かる。③の割合が4人（40％）から7人（70％）に増加していることと、④の割合が0人（0％）から1人（10％）に増加していることが特徴的である。また、B群の学生の事前のアンケートでは、①と②の合計した割合が21人（84％）で、③と④の合計した割合が4人（16％）となっており、多数の学生が不安感を抱いていることが分かる。特に④の割合は0人（0％）となっている。事後のアンケートでは、①と②の合計した割合が18人（72％）と、若干の減少が見られるが多数の学生が不安感を抱いていることが分かる。③の割合は4人（16％）から6人（24％）、④の割合

は0人（0％）から1人（4％）と、それぞれ若干の増加が見られた。そして、A群の学生とB群の学生を比較した場合、A群の学生は事後においても不安感を持つ学生が多少存在はしているが、B群の学生は多数が不安感を抱いていることが特徴的である。

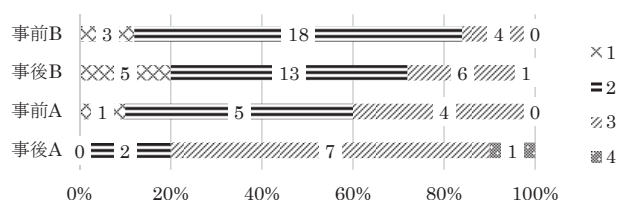


図20 アンケート項目「20」

アンケートの結果、A群に関しては質問の20項目中18項目で不安感の低減がみられた。B群に関しては、14項目で低減がみられる一方で、4項目に増加がみられた。また、事前では、18項目でB群の方が不安感を抱いている割合が高く、事後においても19項目でB群の方が不安感を抱いている割合が高いことが分かった。

4. 小学校教育実習における生徒指導に係る不安感の変化の比較

この節では、同じ内容の質問項目に関して、小学校教育実習に対する参加前と参加後における生徒指導に係る不安感の変化及び、「小学校教諭希望学生」（A群）と「保育士・幼稚園教諭希望学生」（B群）の不安感の差異を比較し、考察していく。

アンケート項目「1」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている割合が1割程度と低く、事後においては、全員が不安を感じていない。これは、最も基礎的な基本的生活習慣に関わる挨拶指導であったことと、2年生からの幼稚園実習・保育所実習・施設実習・特別支援学校実習等の豊富な実習経験があったためではないかと考えられる。③と④に係るA群とB群の事前・事後の割合を比較すると、逆転現象が起こっており、これは、A群が事前の段階でより高い指導効果を望んでいたことと、B群が実際の指導場面で自信を深めていったことによるものと考えられる。

アンケート項目「2」に関しては、事前の段階で、A群は不安を感じている割合が2割と低く、B群は不安を感じている割合が6割と高い。これは、A群は学校支援に関わるボランティア活動等で日常的に児童に接している学生が多く、言葉遣いに関して適切な指導ができると実感していたためと考えられる。B群は事後においても不安感を抱く学生が4割強見られ、十分な指導ができて

いないことが分かる。幼稚園実習や保育所実習では、幼児の暴言等の指導は行いが、言葉遣い全般に対する厳しい指導はあまりみられないため、指導の違いからこのような結果になったものと考えられる。

アンケート項目「3」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が3割程度いたが、事後にはA群は全員が不安感を持っておらず、他方、B群はほぼ変化が見られない。これは、前項の理由に加え、B群はどこまで指導してよいか判断が難しかったのではないかと考えられる。他方、B群の事後において④は4割近くに増加しており、当初の不安が払拭されていることが分かり、実際の指導場面で適切に対応できたためであると考えられる。

アンケート項目「4」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が3割程度いたが、事後にはA群は全員が不安感を持っておらず、他方、B群はほぼ変化が見られない。これは、前項の理由と同様なことが考えられる。B群の④に関しては3割近くの学生が自信を深めた状況が見られ、前項の理由と同様なことが考えられる。

アンケート項目「5」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が2割いたが、事後にはA群は全員が不安感を持っておらず、他方、B群はほぼ変化が見られない。これは、前項の理由と同様なことが考えられる。B群の④に関しては2倍以上の増加が見られ、前項の理由と同様なことが考えられる。

アンケート項目「6」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が5割程度いたが、事後にはA群はほぼ全員が不安感を持っておらず、他方、B群はほぼ変化が見られない。これは、A群は十分な指導ができ、自信を深めたためと考えられる。B群は前項の理由と同様なことが考えられる。

アンケート項目「7」に関しては、事前の段階で、A群は不安を感じている割合が1割と低く、B群は不安を感じている割合が5割程度と高い。事後においても変化はほとんど見られず、B群は十分な指導ができていなかったためと考えられる。

アンケート項目「8」に関しては、事前の段階で、A群は不安を感じている割合が半数存在し、B群は不安を感じている割合が9割近くと高い。事後においては、A群はほぼ不安感を払拭しているが、B群は低減しているものの、まだ不安感を持っている学生が6割存在しており、学級のルール作りに関して十分な指導ができないのではないかと自信を持っていない学生が多いためと考えられる。

アンケート項目「9」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が存在し、特にB群は不安を感じている割合が6割近くと高い。事後においては、A群はほぼ不安感を払拭しているが、B群は低減しているものの、まだ不安感を持っている学生が4割近く存在しており、遊びのルール指導等に関して十分な指導ができないのではないかと自信が持てない学生が多いためと考えられる。

アンケート項目「10」に関しては、事前の段階で、A群はほぼ不安感を抱いておらず、他方、B群は不安を感じている学生が5割以上存在している。事後においては、A群は全員不安感を払拭しており、B群も2割とかなり低減している。小学校において清掃活動は日頃から徹底した指導がなされており、指導に従う児童がほとんどであったため、困った状況にならなかったためではないかと考えられる。

アンケート項目「11」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が多数（6割・8割以上）存在している。事後においては、A群はほぼ不安感を払拭し自信を強めているが、B群は余り変化が見られない。規範意識を育てる指導等に関して十分な指導ができないのではないかと自信が持てない学生が多いためと考えられる。

アンケート項目「12」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が存在している。特にB群の学生の7割以上は不安感を抱いている。事後においては、A群はほぼ不安感を払拭しているが、B群は低減はしているものの、依然半数近くの学生が不安感を払拭していない。実際の授業時において、言葉遣いの指導が十分できなかった学生が多いためと考えられる。この傾向は、アンケートの質問項目「2」とほぼ同じ状況を示している。

アンケート項目「13」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が存在している。特にB群の学生の6割は不安感を抱いている。事後においては、A群・B群ともに低減は見られたが、依然と不安感を払拭していない学生が見られる。実際の授業時において、私語への指導が十分できなかった学生がいたためと考えられる。

アンケート項目「14」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が多数存在している。特にB群の学生の9割近くが不安感を抱いている。事後においては、A群はほぼ不安感を払拭しているが、B群は低減はしているものの、依然7割近くの学生が不安感を払拭していない。実際の授業時において、学習

ルールの指導が十分できなかった学生が多く、自信が持てないためと考えられる。

アンケート項目「15」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が多数存在している。特にB群の学生の7割近くが不安感を抱いている。事後においては、A群はほぼ不安感を払拭しているが、B群は逆に増加し、8割の学生が不安感を払拭していない。実際の小学校現場を体験し器物破損が起こった場合の対応と指導に自信が持てないためと考えられる。

アンケート項目「16」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が多数存在している。特にB群の学生の8割以上が不安感を抱いている。事後においては、A群は変化がほぼ見られず、逆にB群は不安感を抱く学生が増加し、9割以上の学生が不安感を払拭していない。児童の実態に直接触れ、普段接することが稀な暴力行為に対する指導に自信が持てないためと考えられる。

アンケート項目「17」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が多数存在している。特にB群の学生の9割以上が不安感を抱いている。事後においては、A群は低減が見られたが、依然半数近くの学生が不安感を抱いている。B群は、若干の増加が見られ、ほぼ全員の学生が不安感を払拭していない。多くの学校で発生しているいじめに対する指導に自信が持てないためと考えられる。

アンケート項目「18」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が多数存在している。特にB群の学生のほとんど全員が不安感を抱いている。事後においては、A群は多少の低減が見られたが、依然半数の学生が不安感を抱いている。B群は多少の低減は見られたが、9割近くの学生が不安感を払拭していない。多くの学校に存在している不登校児童に対する指導に自信が持てないためと考えられる。

アンケート項目「19」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が多数存在している。特にB群の学生の8割近くが不安感を抱いている。事後においては、A群は低減が見られた。逆にB群は多少増加し、8割以上の学生が不安感を払拭していない。豊かな心を育成する指導に自信が持てないためと考えられる。

アンケート項目「20」に関しては、事前の段階で、A群・B群ともに不安を感じている学生が多数存在している。特にB群の学生の8割以上多くが不安感を抱いている。事後においては、A群は低減が見られた。B群は多少の低減は見られたが、7割以上の学生が不安感を払拭

していない。道徳教育に関わる指導に自信が持てないためと考えられる。

5. おわりに

本稿では、アンケートを通して、小学校教育実習に対する参加前と参加後における生徒指導に係る不安感の変化を明らかにした。そして、「小学校教諭希望学生」(A群)と「保育士・幼稚園教諭希望学生」(B群)の比較を行い、不安感の変化の差異について考察した。

全体としては、他の研究同様に、小学校教育実習の事前と事後では、教育実習参加者の不安感の低減がみられた。これは、自らが小学校教育実習を経験することによって、過剰に抱いていた生徒指導に係る不安感を払拭することができたためと考えられる。他方、A群・B群共に不安感の低減があまりみられなかったり、逆に不安感が増大した事項があった。これは、実習が短期間であるため、大きな課題に対して解決の方法が具体的には分からなかったためと考えられる。

アンケート項目の「1」～「6」の「基本的生活習慣に係る指導」について、A群ではアンケート項目の「5」以外は、事前では2～3割の学生が不安感を持っていたが、事後ではほぼ全ての学生が不安感を払拭していることが特徴的である。一方、B群では、アンケート項目の「1」で全ての学生が不安感を払拭していること、また、多少ではあるが不安感の低減がみられることが特徴的である。この指導に関しては、2年生からの幼稚園実習・保育所実習・施設実習・特別支援学校実習等の豊富な実習経験があったためではないかと考えられる。アンケート項目の「7」～「11」の「ルール・規範意識に係る指導」について、全ての項目で、事前においてB群の学生の方が不安感を抱いている割合が高く(5～8割)、一方、A群の学生は、アンケート項目「8」・「11」以外は不安感を抱いていない学生の割合が高い(7～9割)。また、事後においても、A群の学生はほぼ全員不安感を払拭しているが、B群の学生は、不安感の低減はみられるものの、アンケート項目の「11」で、8割の学生が不安感を払拭していない。保育園・幼稚園に比べ小学校の方がより高い水準での指導の徹底が求められているためではないかと考えられる。アンケート項目の「12」～「14」の「授業に係る指導」についても、事前においてB群の学生の方が不安感を抱いている割合が高く(6～9割近く)、一方、A群の学生は、不安感を抱いていない学生の割合が高い(6～7割)。また、事後においても、A群の学生はほぼ全員不安感を払拭しているが、B群の学生は、不安感の低減はみられるものの、アンケート項目の

「14」で、7割近くの学生が不安感を払拭していない。A群の学生は4年生になる前から自主的に模擬授業の経験を積んでおり、授業時の指導に対する自信の差が結果として表れたと考えられる。アンケート項目の「15」～「18」の「問題行動に係る指導」については、事前においてB群の学生の方が不安感を抱いている割合が高く(9割前後)、一方、A群の学生も、半数以上が不安感を抱いている。この指導に関しては、事後においてA群に低減がみられるが、B群においては増加がみられることが特徴的である。器物破損・暴力行為・いじめ・不登校は保育園・幼稚園にはあまりみられず、小学校ではしばしば発生すると同時に徹底した指導が求められるという状況があり、学生の選択する職業に対する意識の差が結果として表れたと考えられる。アンケート項目の「19」～「20」の「豊かな心を育成することに係る指導」については、事前においてB群の学生の方が不安感を抱いている割合が高く(8割前後)、一方、A群の学生も、半数前後が不安感を抱いている。この指導に関しては、事後においてA群に低減がみられるが、B群においては余り変化がみられないことが特徴的である。A群は、早い時期から小学校教育における生徒指導と道徳教育の深い関連性に着目しており、学生の選択する職業に対する意識の差が結果として表れたと考えられる。

以上のことから、小学校教育実習における生徒指導に係る学生の不安感の低減に関して、次の指導の在り方が考えられる。「基本的生活習慣に係る指導」については、小学校教育実習の事前指導は当然として、2年生から始まる各種の実習において、事前・事後指導を含めて充実させることで、さらなる改善を図ることができると考えられる。「ルール・規範意識に係る指導」については、保育所・幼稚園と小学校における教育の違いを明確にし、小学校で望まれる指導の在り方を小学校教育実習の事前指導で具体的に学ぶことが考えられる。「授業に係る指導」については、今以上に、「指導案作成→模擬授業実施→評価・反省→改善」のサイクルを明確にし、演習形式の回数を増やすとともに、意図的に生徒指導上の問題行動を児童役が行うことで、経験値を増やすことが考えられる。「問題行動に係る指導」や「豊かな心を育成することに係る指導」については、4年生になる前から新聞や雑誌・書籍に掲載された具体的事例を紹介し、小学校教育実習における自己の取り組みに活かす指導が考えられる。

引用文献

- 1) 吉良英・佐藤静一・篠原弘章：教育実習体験に関する研

- 究—教育観及び教職意識の変化—, 熊本大学教育学部紀要 (人文科学), 23号, pp. 166-182, 1974.
- 2) 三島知剛・山崎光洋・高旗浩志・関根正美・渡邊将勝・赤崎哲也・柴田靖子・岸晶子・太田泰子・加賀勝: 1 年次教育実習プログラムの成果と課題の検討—平成23年度教育実習 I 受講生アンケートの結果から—, 岡山大学教師教育開発センター紀要, 第 2 号, pp. 112-119, 2012 など.
- 3) 戸田浩暢: 学生の実習に対する不安感の考察, 広島女学院大学人間生活学部紀要, 創刊号, pp. 47-57, 2013.

- 4) 澤登義洋: 教育実習事前事後指導の今後の方向—少人数演習形式による教育実習事前指導受講者へのアンケート調査をもとに—, 教育実践学研究, 12号, pp. 82-98, 2007.

参考文献

- 内藤勇次編著: 小學校生徒指導の実際, 学事出版, 2000.
- 内藤勇次編著: 小學校生徒指導の基礎・基本, 学事出版, 2000.
- 高橋超・石井眞治・熊谷信順編著: 生徒指導・進路指導, ミネルヴァ書房, 2002.